

ランビーノ パラガス 教授
LAMBINO, John Paragas

経済学部 経済学科

■ 研究業績等

【著書】

- ・著書『Asian Studies, Volume 1』
Amsterdam University Press（共著）：2022/06
- ・著書『アジアからの戦略的思考と新地政学』芙蓉書房（共著）：2015/10
- ・著書『Food Security and Food Safety for the Twenty-first Century』Springer（共著）：2015

【論文】

- ・学術論文「フィリピンとベトナムにおける国内再投資力の比較ー経常収支および企業の投入要素を中心にー」
経済論叢 193(2):127-156（単著）：2019/04
- ・学術論文「モダニティにおける『時間的一特性』についての一考察ー『現在主義』の超克に向けてー」
京都橘大学大学院文化政策学研究科研究論集 (13):17-48（単著）：2019/03
- ・学術論文「フィリピン経済の国内再投資力ー投入財の視点における中小企業と大企業の違いを中心にー」
京都橘大学大学院文化政策学研究科研究論集 (12号):5-26（単著）：2018/03

【学会発表】

- ・Nomadism of public space dwellers in Metro Manila, the Philippines: On their home, mobility, and survival (Neighborhood Transformation in East Asian Cities: Is "Gentrification" the Right Frame of Reference) : 2022/05/16
- ・Economic Twins but Not Identical: A comparison of the economic structures of the Philippines and Vietnam (The 12th International Convention of Asia Scholars/ Engaging with Vietnam 12) : 2021/08/24
- ・地域経済学からみる人間の移動性：フィリピン人の事例を中心に : 2020/01/15

キーワード

モダニティ 個人主義 現在主義

対応可能なもの ■講演 □研修 □研究相談(学術指導) □学術調査 ■コメンテーター ■共同研究・受託研究

モダニティに求められるのは？

研究の概要

ハーバーマスは、「現在」に対する希望や賞賛は、近代における西洋社会の変容から生まれたと指摘しましたが、「現在主義」が最初からモダニティに内在していたという仮説を立てて、本研究を進めました。

現象、構造、思想という三つの次元における「モダニティの時間的特性」を検討したところ、現象レベルにおいては、食料とエネルギーを事例として、各時代の歴史的な展開を概観し、それらの変遷からモダニティの時間的一特性である「現在主義」を抽出しました。

構造レベルにおいては、資本主義という社会経済構造を分析し、その構造に「現在主義」がどのように内在しているかを明らかにしました。すなわち、激しい競争が経済システムに埋め込まれた状況下において、より多くのエネルギーが利用され、生産と消費の両方の拡大が追求されていることを指摘しました。そしてこのシステム下では、社会が現在という短い時間に集中するよう強制してきたことを示唆しました。

さらに、思想レベルにおいては、デカルトの「我思う、故に我あり」という命題で示唆された、個人の意識の確実性が存在を証明する十分条件であるという理論を詳述し、この思想が個人の生命の長さによって定義された現在主義的な思考の基礎となっていることを論じました。

研究の詳細

□研究・技術のプロセス □研究事例 ■研究成果 ■使用用途・応用例 □今後の展開

「現在主義」の考察を進めながら、それに伴う諸問題を指摘しました。例えば、エネルギー利用のあり方については、現在の利便性にこだわるあまり、過去と未来を軽視しており、温暖化ガス排出と気候変動、使用済み核燃料保管などの問題が生じています。このようなモダニティにおける現在主義に伴う諸問題を乗り越えるために、プラトンとアリストテレスの思想を探りながら、正義について論述することを試みました。プラトンの正義論は、人間同士の関係の秩序を保つことが目的でしたが、本研究では人間生活のすべてが人間同士の関係の中で行われているわけではないことを指摘し、プラトンの正義論を人間関係の視点から再構築しました。

また、人間の経験についてアリストテレスの思想を再検討し展開させつつ、人間が、①自然環境との関係、②人間同士の関係、③自己という三つの関係を持っていることを指摘しました。さらに、人間の生活という視点からプラトンの正義論を再検討し、モダニティに求められる正義とは、人間環境内・人間関係内・自己内に協和を保つ意識であることを論じました。

産学官連携先に向けた
アピールポイント

・モダニティにおける諸課題を考察